

令和7年度  
オーストラリア友好親善訪問団  
派遣事業  
実施報告書



白石市国際交流支援協議会

# 目 次

令和7年度オーストラリア友好親善訪問団派遣事業 概要	2
オーストラリア友好親善訪問団 団員名簿	3
オーストラリア友好親善訪問団 日程表	4
オーストラリア友好親善訪問団 活動の記録	5
オーストラリア友好親善訪問団員 感想文集	
1. 白石中学校 2年 小 関 義 恭	11
2. 白石中学校 2年 正 路 大 翔	13
3. 白石中学校 2年 高 橋 史 桜	15
4. 白石中学校 2年 照 井 緋 寧	17
5. 白石中学校 2年 半 沢 桜	19
6. 白石中学校 2年 疋 田 晴 應	21
7. 東中学校 2年 大 橋 陸 斗	23
8. 東中学校 2年 渡 邊 晴	25
9. 団 長 小 室 悦 子	27
10. 副 団 長 大 宮 葉 子	30

## 令和7年度オーストラリア友好親善訪問団派遣事業 概要

### 1. 事業趣旨

オーストラリアに中学生を派遣し、ホームビジットや体験入学等の交流を通して、中学生の豊かな国際感覚を育み、互いの文化・価値観・生活様式等の理解と尊重を図り、友情を育むことを趣旨とする。

### 2. 派遣先・交流校

(派遣先) オーストラリア・ニューサウスウェールズ州 シドニー、カウラ、キャンベラ

(交流校) 聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ校

※以下、「聖ラファエル校」と称する。

### 3. 訪問日程

令和7年7月28日(月)～8月6日(水) 10日間

### 4. 訪問団員の構成

計10名 (生徒) 市内中学校 2年生 8名

(引率) 市職員 1名、学校教職員 1名

### 5. 宿泊

シドニー (ホテル) 1泊

カウラ (ホテル) 4泊

キャンベラ (ホテル) 2泊

東京 (ホテル) 1泊

機内 1泊

### 6. 内容

① シドニー市内見学 (動物園、オペラハウス等)

② 聖ラファエル校での学校体験 (2日間)

③ 聖ラファエル校での出し物発表 (全体発表: クイズ、班活動: 茶道・書道)

④ ホームビジット (3日間)

④ カウラ市内見学 (戦争墓地、日本庭園等)

⑤ キャンベラ市内見学 (戦争記念館、国会議事堂等)

## 令和7年度オーストラリア友好親善訪問団 団員名簿

### 〈生徒名簿〉

NO.	学 校 名	氏 名	ふりがな	性 別
1	白石中学校	小 関 義 恭	こせき よしすけ	男
2	白石中学校	正 路 大 翔	しょうじ やまと	男
3	白石中学校	高 橋 史 桜	たかはし しおう	女
4	白石中学校	照 井 緋 寧	てるい あかね	女
5	白石中学校	半 沢 桜	はんざわ さくら	女
6	白石中学校	疋 田 晴 應	ひきた せいおう	男
7	東中学校	大 橋 陸 斗	おおはし りくと	男
8	東中学校	渡 邊 晴	わたなべ はる	女

### 〈引率者名簿〉

NO.	所 属	役 職	氏 名	ふりがな	性別
団長	議会事務局	調査係長	小 室 悦 子	こむろ えつこ	女
副団長	白石中学校	教諭	大 宮 葉 子	おおみや ようこ	女

## 令和7年度オーストラリア友好親善訪問団 日程表

	月日	地名・場所	時刻	主な行事予定	食事	宿泊
1	7月28日 (月)	白石市役所	12:45	市役所1階ロビー集合		
			13:00	出発式 終了後バスで白石蔵王駅へ		
		白石蔵王駅 発	13:58	やまびこ142号		
		東京駅 着	15:48	浜松町駅を経由し、モノレールで羽田空港へ		
		羽田空港 着	16:30	スーツケース受領	軽食	
		羽田空港 発	22:45	全日空879便 (NH879)	機内食	機内
2	7月29日 (火)			機内で朝食	機内食	
		シドニー空港 着	9:25			
		シドニー 着		シドニー市内見学【動物園、ダーリングハーバー、フェリー・路面電車、オペラハウス】	昼	
			17:00	ホテルチェックイン (Metro Hotel Sydney Marlow)		
			18:00	夕食 (中華料理)	夜	ホテル
3	7月30日 (水)	シドニー	6:30	ホテルにて朝食	朝	
		シドニー 発	7:45	ホテルチェックアウト、バスでブルーマウンテンズ国立公園展望台を経由 (予定であったが、濃霧のため立ち寄りず) し、カウラへ	昼	
		カウラ	15:15	聖ラファエル校到着、ホストファミリーと対面 ホテルチェックイン (Breakout Motor Inn) レストランにて夕食	夜	ホテル
4	7月31日 (木)	カウラ	朝	登校、学校で朝食	朝	
				校外学習【カウラ市庁舎→観光案内所 (ホノグラム見学) →平和の鐘】、ヘルビュー・ヒル保護区 (ピリー・ゴート・ヒル) へ行ってピクニック・ランチ、授業体験	昼	
			15:15	ホストシスター・ブラザーと下校		
			20:00	ホテル (Breakout Motor Inn)	夜	ホテル
5	8月1日 (金)	カウラ	朝	登校、学校で朝食	朝	
				出し物発表 (クイズ、茶道・書道)、牧羊場見学、授業体験	昼	
			15:15	ホストシスター・ブラザーと下校		
			20:00	ホテル (Breakout Motor Inn)	夜	ホテル
6	8月2日 (土)	カウラ	朝	学校で朝食	朝	
			8:30	ホストファミリーと過ごす	昼	
			17:00	ボンファイヤー & BBQ (全員集合)	夜	
			19:00	ホストファミリーとお別れし、ホテルへ (Breakout Motor Inn)		ホテル
7	8月3日 (日)	カウラ	朝	礼拝へ出席後、学校で朝食	朝	
			昼	収容所跡地、戦争墓地、日本庭園を見学後、学校へ戻り昼食	昼	
		カウラ 発	13:00	カウラを出発		
		キャンベラ 着	16:00	ホテルチェックイン (Ibis Budget Canberra) レストランにて夕食	夜	ホテル
8	8月4日 (月)	キャンベラ	8:00	ホテルにて朝食	朝	
			昼	キャンベラ市内見学【マウント・エインズリー展望台、戦争記念館、国会議事堂 (昼食はこちらで)】	昼	
			18:00	レストランにて夕食 (Star Buffet Restaurant)	夜	
			19:30	ホテル (Ibis Budget Canberra)		ホテル
9	8月5日 (火)	キャンベラ 発	5:00	ホテル発 (途中マクドナルドで朝食)	朝	
		シドニー空港 着	9:30			
		シドニー空港 発	11:50	全日空890便 (NH890)	機内食	
				(出発2時間後にメイン食事、到着2時間前に軽食)		
		羽田空港 着	20:40			
		大鳥居駅 着	22:15	ホテルチェックイン (hotel MONday 羽田空港)		
10	8月6日 (水)		8:00	ホテルにて朝食	朝	
		大鳥居駅 発	9:30	ホテルを出発。大鳥居駅から品川駅を経由し、東京駅へ		
		東京駅 着	10:15			
		東京駅 発	11:00	やまびこ135号		
		白石蔵王駅 着	12:47	駅内で解散式		
		ホームビジット				

## オーストラリア友好親善訪問団 活動の記録

### ★6月12日(木) 「保護者説明会」

派遣団員決定後、初めて全員が顔を合わせました。事務局の説明にしっかりと耳を傾け、訪問団としての使命や責任について理解しようとしていました。

また、昨年度の訪問団の生徒から体験談講話として、オーストラリアで感じたことやアドバイスをいただきました。そして今年は、昨年度の訪問団の保護者にもお越しいただき、今年度派遣する生徒の保護者が抱えている不安などに回答する場を設けました。訪問団の皆さんは、オーストラリアでの体験、学びに期待を膨らませている様子でした。



### ★6月19日(木)

#### 「第1回事前研修会」

初めての顔合わせとなった保護者説明会から1週間。オーストラリア訪問を見据え、まずは、自己紹介やアイスブレイクなどを行いました。研修を進める中で、10日間ともに生活をする仲間と少しずつ距離を縮めていきました。

第1回目は、ALTによる語学演習から聖ラファエル校で発表する出し物発表(全体発表・班活動)の内容について、全員で意見を出し合いました。

語学演習では、初めは声も小さく笑顔も少なかったですが、会話を重ねるうちに自然と声も笑顔も出てくるようになりました。

全体発表や班活動については、各自やってみたいことや伝えたいことを出し合い、全体発表ではクイズを、班活動では茶道と書道を行うことに決定しました。



★6月26日(木)

「第2回事前研修会」

出発まで約1か月と迫った第2回。この日は語学演習を行ったのち、全体発表で行う「クイズ」について内容を詰めました。1人1人考えてきた○×クイズや早押しクイズを持ち込み、ALTに添削してもらいながら進めました。

1回目の研修会よりも雰囲気が和やかになり、発言が活発化しました。



★7月3日(木)

「第3回事前研修会」

事前研修会も残り2回となり、語学演習後、クイズについて詳細に詰めていきました。外国人が聞いて楽しくなるようなクイズになるように、ALTの力を借りながら、修正していきました。

班活動については、各班に分かれて、発表に必要なものを整理していきました。

★7月10日(木)

「第4回事前研修会」

渡航まであとわずかになり、語学演習では、ジェスチャーやリアクションを大きくとるなど、より実践的にALTとコミュニケーションをとりました。第1回事前研修会の時に比べると、表情が柔らかく、声も大きくなり、英会話に慣れてきたようでした。



班活動では、ALTに聖ラファエル校の生徒になりきってもらい、実演をしました。聖ラファエル校の生徒とどのような会話をするとよいか、発表で足りない物はないかどうかなどの確認を行いました。

★7月17日（木）

### 「第5回事前研修会」

いよいよ最後の事前研修会となったこの日は、全体発表のクイズと班活動に絞って最終確認をしました。

クイズでは、発音やスペルの確認をしたあと、時間を計って通して行いました。翌週の結団式では全体発表の披露をするため、これまで以上に真剣に取り組んでいました。



渡航前最後の研修でしたので、これまでよりも緊張感と責任感をもって取り組んでいました。

班活動では、実演をして、聖ラファエル校の生徒に楽しんでもらえるように、ALTのアドバイスをもとに、会話やリアクションを考えました。



その後、事前研修会の成果披露として、全体発表であるクイズの一部をお披露目しました。

生徒は少し緊張しながらも、練習の成果を存分に披露しました。

また、抱負として「新しい知識や文化を学び、今後の学校生活などに役立てたい」と決意を語りました。

### ★7月23日（水）「結団式」

全5回の事前研修会もあっという間に終わり、本当のスタートに向けた結団式が行われました。

大庭副市長からは、「色々なことに挑戦してほしい」「白石市、日本の親善大使としてPRしてきてほしい」とお話をいただきました。副市長の激励に、生徒たちは真っすぐな眼差しで話を聞いていました。



### ★7月28日(月)「出発式」

待ちに待った出発の日。生徒の表情はとても明るく、これから始まる日々に期待を膨らませているようでした。

生徒代表あいさつでは、「白石市の代表として、オーストラリアでたくさんのことを学んで、元気に帰ってきます。」と力強い言葉がありました。



### ★8月6日(水)「解散式」

10日間の行程を無事に済ませ、訪問団は白石蔵王駅へ帰ってきました。大きなトラブルもなく、立派に役割を果たした生徒たちは、達成感や自信に満ち溢れた表情をしていました。

生徒代表あいさつでは、オーストラリアで学んだことや関わってくれた方々への感謝の気持ちを伝えました。

### ★8月21日(木)「解団式」

帰国から約2週間後、解団式が行われ、オーストラリアでの活動報告や今後の決意を発表しました。

また、一人一人将来に向けて、今回の派遣事業を通して感じたこと、レベルアップしたいと思ったことを発表し、更なる成長を誓いました。

よりたくましくなった生徒たちが、世界に羽ばたくことを期待します。



★11月30日（日）「令和7年度青少年健全育成市民のつどい」

派遣事業の集大成とも言える場で、同じ中学生や市民に向けて訪問団の活動を発表しました。

解団式以来の発表の場となりましたが、緊張を見せることなく、自分たちしか経験していない貴重な相互交流について堂々と発表しました。

つどいの中では、中学校1年生・3年生による「私の主張」も発表され、真剣に耳を傾けながら、刺激を受けている様子でした。



令和7年度

オーストラリア友好親善訪問団員

## 感想文集

1. 白石中学校 小関義恭
2. 白石中学校 正路大翔
3. 白石中学校 高橋史桜
4. 白石中学校 照井緋寧
5. 白石中学校 半沢 桜
6. 白石中学校 疋田晴應
7. 東中学校 大橋陸斗
8. 東中学校 渡邊 晴
9. 団 長 小室悦子
10. 副 団 長 大宮葉子

## 「派遣事業を終えて」

白石中学校 2年 小関 義恭

私がこの派遣事業に応募したのは、オーストラリアに興味があったのはもちろん、自分の学んだ英語がどの程度役に立つかが気になったからです。日本のリスニングは遅いということを知ったことがあったので、海外はどの程度の早さなのか気になったからでもあります。また、南半球ということも気になりました。南半球ということは、排水溝の水の流れ方も違います。そのようなことにも興味を持ち、応募しました。そして、昨年、沖縄にホームステイに行った際に、文化の違いや生活様式の違いに驚き、オーストラリアではどのようなものなのかも気になりました。事前研修会では、ALTの先生がゆっくりと話してくれていて、「このようなスピードなのか」と軽く構えていました。出し物発表を考える時は、みんなで必要なものやどのように動くかを協力して考えました。そして誰が何を持っていくかを決めました。



▲全体発表のクイズについて考える

私は、この事業で、オーストラリアと日本との文化の違いを知りました。また、言語が伝わらないということはどのようなことなのかも学びました。まず、違いを感じたのは、現地ガイドさんのバスに乗った時でした。日本ではありえない、普通の道路を時速100kmで走っていました。オーストラリアは日本とは距離感覚が違い、時速100～150kmが当たり前になっています。そのため、それぐらいのスピードを出すのだと感じました。その他にも、道路に街灯がないことにも驚きました。白線に反射する材料が埋め込まれているようで、電気を使わずに白線を見つけることができるので、エコだと思いました。その他にも信号がないロータリーの交差点もあり、全体的に電気を使わないようになっていました。次に文化の違いを感じたのは、カウラの脱走事件の話を聞いた時です。音声案内の翻訳を見たときに、「私たちには理解ができませんが、日本には捕虜になるのは『恥』という考え方があるのです。」と書かれていました。このことを現地ガイドの人に聞いたところ「まあ、日本以外は捕虜になるのは『誇り』だからな。」



▲ホストバディとの初顔合わせ

と言われました。日本は「恥」、海外は「誇り」という真逆の考え方がありました。同じ島国なのにここまで変わるということに驚きました。

そして、言語が伝わらないことで事件が起きました。それは、友達がホストファミリーの家でトイレに行った時でした。自分も待っていたので「早くしろよ～」と言ったら、「待って、鍵開かないよ。」と言ってきました。早くしてほしかったので、「最後までちゃん

と回してよ。」と言うと、「回らないよ。」と言われ、ホストファミリーを呼びに行きました。焦っていた私は、「lock」という単語が浮かんでこなくて、「My friend in toilet.」と言いました。ホストファミリーには、「だから？」というような表情で見られてしまいました。しかし、「help」の単語を思い出し、連呼するとペーパーのことだと思われてしまい「OK OK!」と言い、ペーパーを持ってきてしまいました。「No! Door not open.」と言うと頷き、工具を持ってきてくれました。しかし、ばらばらにしても中の板が回らずドアが開かなかったので、手伝おうと思いましたが、自分がどのように声をかければいいのかわかりませんでした。「Can I」なのか「May I」なのか、わかりませんでした。そして、身振り手振りと「I can help.」と言って、手伝ってもらいました。全く言いたいことが伝わらず、とても困ってしまいました。このように、知識不足と焦りで言葉が出てこないなか、伝えなければいけない大変さを経験しました。



▲聖ラファエル校での授業体験

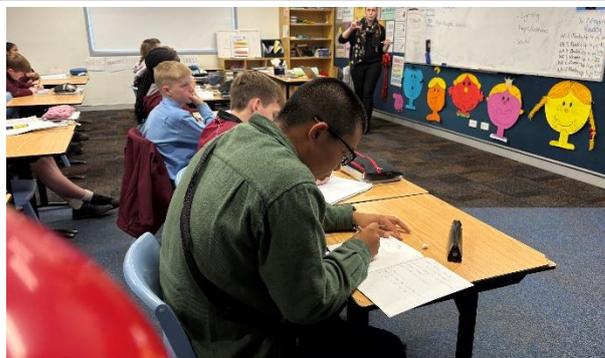
このことから、英語を勉強するときは、日常的な会話からもしもの時のことまで学んでいこうと感じました。

## 「派遣事業を終えて」

白石中学校 2年 正路 大翔

私が今回の事業に応募したのは、両親や昨年度訪問した先輩からの勧めもありますが、オーストラリアと日本の歴史や文化の違いを知りたかったことと、自分の英語力を磨きたかったからです。本やインターネットなどで調べることもできますが、実際に自分の目で見たかったことが決め手になり、応募しました。

最初に訪れたシドニーでは、まずオーストラリアの明るく開放的な雰囲気には驚かされました。動物園やオペラハウスを訪れ、キングストリートでは、シドニーの高層ビル街を散策しました。



▲聖ラファエル校での授業体験

また、シドニーでは日本よりも人と人との距離が近く、文化の違いを感じました。すれ違う人同士が「Hi!」や「How are you going?」と自然に声をかけ合う風景は、日本ではあまり見られないもので、とても新鮮でした。

次に訪問した都市はカウラです。カウラでは、聖ラファエル校という現地の学校と日本人墓地やPOWと呼ばれている戦争捕虜収容所の跡地といった日本が深く関係している施設を見学しました。

聖ラファエル校では、ホストブラザーと一緒に行動していました。まず初めに驚いたことは、基本的にオーストラリアの授業は、ほとんどの授業で自主的に課題を進めていくということです。日本では、先生から問題の解き方などを教えてもらいながら進めていくので、教育の仕方の違いがあるのだなと思いました。そして、先生と生徒の距離の近さにも驚きました。休み時間には校庭に行き、バスケの審判をしていたり、生徒と友達のように話しながら廊下を歩いていたりしていました。初めは戸惑いましたが、フレンドリーな関係の中にも信頼があることが分かりました。日本では「先生＝目上の人」という印象が強いですが、オーストラリアでは「先生と生徒が互いに尊重しあう」関係が大切にされているのだなと感じました。



▲聖ラファエル校での出し物(茶道)発表

全体発表では、日本や白石市にまつわるクイズを出しました。みんなが楽しんでいたのも、頑張って準備した甲斐があったなと思いました。

その後、日本人墓地を見学しに行きました。日本人墓地では、多くの日本人兵が眠っていました。そこにいる人のほとんどはまだ名前が分かっていませんでした。当時は日本とオーストラリアとで戦争状態にあったわけです。

が、その状況下でも現地の人々が日本人のためにも墓地を作り、それが現代まで全く同じ意思で残っていることを知り、感動しました。

また、日本兵の捕虜たちが実際に生活していた、戦争捕虜収容所を見学しました。この場所は、カウラ事件と呼ばれる日本人の捕虜脱走事件が起きた場所です。その説明が書かれているボードを読みながら敷地内を散策しました。捕虜収容所からの脱走は、生き残る可能性がとても低い、命がけの脱走だったことを知り、心が痛みました。

最後に訪問したキャンベラでは、国会議事堂や戦争記念館を見学し、日本との歴史的な関わりについても学びました。特に、戦争記念館では、日本軍の快進撃を受け、オーストラリア国民に反日感情をあおるポスターなどの展示を見たときは、オーストラリアが今のように親日国になるまでに、長い時間と歴史、そしていろいろな思いと努力があったことを知り、心が引き締まる思いでした。

また、隣接されている広場の奥にあったお堂には、戦争によってヨーロッパで亡くなってしまった名前の分からない兵士たちが埋葬されていました。そして左右には、これまでにオーストラリアが参戦した戦争で亡くなってしまった10万人を超えるオーストラリア兵たちの名前が刻まれている石板がありました。そして正面には、世界の平和を願い続け、燃え続ける炎がありました。今までは、日本側の視点でしか見ていなかった戦争を、当時敵であったオーストラリアの視点で見ることで、命の尊さ、戦争の残酷さをまざまざと感じるとともに、二度と同じ過ちを繰り返してはいけないという思いが強くなりました。



▲キャンベラの戦争記念館にて

今回の事業を終えて、私は日本とオーストラリアの関係が今とても良好なのは、先人の方たちが努力した結果だったということ、文化が異なってもコミュニケーションをとることで、その文化についても深く知ることができるということが分かりました。また、英語は文化の違いという壁を越えてつながることができる、大切な手段の一つなのだなどと改めて思いました。

最後に、この事業を支えてくださった先生方や白石市の職員の皆様、現地でお世話になったホストファミリー、そして私を送り出してくれた家族に心から感謝しています。この10日間の経験は、私にとって一生忘れられない大切な思い出になりました。これからもこの経験を生かし、もっと広い世界に目を向けて、成長していきたいです。

## 「オーストラリア派遣事業の振り返り」

白石中学校 2年 高橋 史桜

私は、令和7年度オーストラリア友好親善訪問団派遣事業で、自己主張の大切さと価値観の差や生活の差があっても受け入れ、尊重し合うことが大切であるということをとて深く学ぶことができました。

まず、オーストラリアに到着して、トイレ休憩から始めました。オーストラリアではトイレマークが日本と違っていました。また、シドニーでは2種類の横断歩道があり、1つは二本線で日本と同じく信号機があり、青の時だけ渡れるもの、もう1つは縞々線で信号機が無く、歩行者優先のものがありました。大まかなデザインや公共の仕組みは世界共通だと思っていた部分が、実は各国それぞれオリジナルで工夫しているのだなと思いました。シドニーの横断歩道に信号機が無いのは、オーストラリアの人々は日本人と違い、行動がはっきりしているためだと考えました。



▲事前研修会の語学演習にて

次に、私生活においての日本との違いです。私が一番衝撃を受けた部分でした。なぜなら、オーストラリアの人々は常にカンガルーと近い生活を送っているからです。バスや一般的に乗られている車には、前にカンガルーが当たっても被害を最小限に抑えるために、「カンガルーバー」というものをつけていました。ガイドの方によると、カンガルーバー無しでカンガルーに当たると、カンガルーと車のどちらも飛んでしまうそう



▲子羊を抱っこする体験

です。他にも、オーストラリアは羊毛の生産が非常に多い国なのですが、私たちが見学に行った場所にはたくさん羊がいて、とても広大な草原を使って羊を飼っていました。その場所の所有地面積の区切り方は大胆で、木で敷地を囲って示していました。このような方法は、カウラでは少なくないようで驚きました。また、オーストラリアではフットボールが人気で、ホストファミリーが練習に行った時に連れて行ってもらい、挑戦しました。私はあまり高くまで飛ばすことができなかったのですが、オーストラリアの人たちは日本の家より高く飛ばしていました。

聖ラファエル校での出来事です。聖ラファエル校の生徒たちは手を振ると笑顔で返してくれて、日本人の感覚でよくある「私に振ったのかな。」という躊躇もなく返してくれました。授業はすべて移動する授業でした。私は最初、オーストラリア人は時間にとってもルーズだと思っていたのですが、授業が終わったあとすぐに移動をして、時間感覚がしっかりしていることに気づきました。席は基本的に自由で、先生も堅苦しくなく教えるスタイルで、生徒のみんなが授業を受けやすそうな印象でした。クイズ発表で

は、本番前は最悪な結果になると思っていたのですが、実際は皆楽しそうにしてくれて、嫌な結果になるとは限らないということに気づけました。

最後に、日本とオーストラリアの捕虜の事件です。日本人のワガママにずっと応えてくれていたオーストラリアですが、日本人が今まで何不自由なく生活していたにも関わらず脱走。死んでしまった日本人をオーストラリアはその後も意思を受け継ぐため、カウラ脱走事件を伝える場所がたくさんありました。話をじっくり聞いて、この事件は忘れられてはいけないと思い、日本でも受け継ぐべき内容だと思いました。

感想文では表しきれないほど楽しく、学びの多かった10日間。この出来事はこれから活かせることがたくさんあり、充実した事業にすることができました。身近な人だけでも、この学びを伝えていきたいです。



▲カウラの日本人戦没者墓地にて

## 「オーストラリアでの貴重な体験と学び」

白石中学校 2年 照井 緋寧

私がオーストラリア派遣事業に応募した理由は、現地で英語を使うことで自分の英語力をさらに高めたいと考えたからです。この派遣事業に興味を持ったきっかけは、小学5年生のときに白石市の広報で、その年にオーストラリアに行った方の紹介を見たことでした。その記事を読んで「私もいつか行ってみたい、こんなふうになりたい。」と思い、オーストラリアに行くことが夢になりました。それから、「オーストラリアに行くためには何が必要だろう。」と考え、まずは英語力を高めることに力を入れました。当時の小学校の外国語の授業では学べる内容に限りがあったため、自分で英語検定に挑戦することに決めました。そうして4年間、英語の勉強を続けてきた結果、今回この派遣事業に参加できることになり、本当に嬉しく思いました。

事前研修会では、各学校のALTの先生方が集まり、オーストラリアで使うであろう英会話を一緒に練習しました。ALTの先生方は、やさしく丁寧に正しい発音や、より伝わりやすい文法、さらに会話中に使えるジェスチャーなども教えてくださいました。

実際にオーストラリアへ行って驚いたことは、すれ違う人がみんな笑顔で挨拶をしてくれたことです。また、お店でレジに並んで

いるときにも店員さんが気さくに話しかけてくれて、初めての外国の通貨に少し戸惑いしましたが、そのおかげで緊張が和らぎ、安心して買い物をすることができました。

学校体験では、たくさんの驚きがありました。中でも特に印象に残っている3つのことを紹介したいと思います。



▲ボンファイヤーでホストシスターと



▲学校で一緒にカードゲーム

1つ目は、先生と生徒の関係がとても近く、フレンドリーだったことです。私がそう感じたのは、目の前で先生と生徒が冗談を言い合い、笑いながら自然に会話をしている場面を何度も見たからです。日本では「親しき仲にも礼儀あり」や「亀の甲より年の功」といった言葉に表されるように、年上の方や先生には敬意を払うことが当たり前とされていて、先生と生徒がここまで打ち解けている様子はあまり見られません。その

ため、オーストラリアの学校の雰囲気がとても新鮮に感じられました。

2つ目は、生徒たちが教室内を自由に立ち歩いていることです。日本の学校では、基本的に先生の許可がないと席を立ってはいけませんが、オーストラリアでは違いました。分からないことがあると、生徒は自由に席を立って友達に質問しに行くなど、学びに対してとても自主的で積極的な姿勢が見られました。こうした柔軟な学習環境が、生徒の主体性を育てているのだと感じました。

3つ目は、私たちのつたない英語をととても丁寧に聞き取ってくれたことです。ホストファミリーや聖ラファエル校で出会った友達に質問をしたとき、「あなたが言いたいのはこういうこと？」と確認しながら、正しい英語の表現に直して教えてくれました。また、うまく単語が出てこなくて言いたいことが伝えられないときには、私が身振りや知っている単語を使って伝えようとする、「その時はこう言うともっと伝わるよ。」と親切に教えてくれて、とても助けられました。相手の話をしっかり聞こうとする姿勢と、間違いを責めるのではなく優しくサポートしてくれる雰囲気に、温かさを感じました。

これらの体験を通じて、オーストラリアの学校や文化、人々の温かさに触れることができ、私にとって非常に貴重な時間となりました。言葉の壁を感じることもありましたが、その中での学びや成長が自信につながり、さらに英語力を伸ばしたいという気持ちが強くなりました。また、異なる文化や価値観を尊重する大切さも実感しました。この経験を今後の学びや人生に生かし、さらに自分を成長させていきたいと思えます。そして、またいつかオーストラリアを訪れ、今回の経験をもっと深めていけたらと思っています。



▲カウラの日本庭園にて

## 「オーストラリアでの体験」

白石中学校 2年 半沢 桜

私がオーストラリア派遣事業に応募した理由は、海外と日本の文化の違いを知りたかったからです。学校での過ごし方や建物の造りの違いなど、日本とどのような違いや共通点があるかが気になっていました。また、去年オーストラリアの人たちが白石中学校に来て交流をしました。そのときは、けん玉や折り紙をしてとても楽しかったのを覚えています。なので、自分も実際に現地に行って交流がしたいと思いました。

事前研修会では、4人のALTの先生が来てくれて、様々なことを勉強することができました。学校体験で使えそうな英語や体調を崩したときに使える英語を学ぶことができました。YesとNoをはっきりすること、自信をもって喋ることなどのアドバイスもしていただき、英語で会話をするときの不安なことがどんどん減っていきました。

実際にオーストラリアに行き、たくさんの驚きと発見がありました。最初に驚いたことは、知らない人でもすれ違ったら笑顔で挨拶をしてくれることです。日本にはない文化で、誰でも挨拶をすれば返ってくるのが嬉しかったです。お店のレジでも店員さんがたくさん話してくれました。自分で質問に答えられたときは達成感がありました。



▲出し物(茶道)発表を事前研修会で練習



▲聖ラファエル校の生徒とコミュニケーション

学校体験では、いろいろな教科の授業を受けました。バレーボールをしたときは、海外のネットの高さやボールの大きさに驚きました。最初のサーブが上手く打てなくても責めたりせず、上手く打てる方法を教えてくれたり手助けをしてくれたりしました。なので、とても楽しむことができました。ホストファミリーの家ではゲームやビリヤードをしました。一緒にお菓子作りもしました。また、

行きたい場所を伝えたら連れて行ってくれました。ホストファミリーのあたたかさをたくさん感じられました。

日本や白石市の紹介をするときはみんなに楽しんでもらえるか不安でしたが、クイズも出し物発表も楽しそうに参加してくれていたのが嬉しかったです。クイズでは、大

きく○×のポーズをしてくれたり、正解したときや間違ったときはリアクションをしてくれたりしました。出し物発表は、たくさんの生徒が来てくれて、お茶やお菓子を楽しんでくれました。海外で日本の文化を披露するという経験ができてよかったです。

私は、オーストラリア人のあたたかさや優しさを感じることができました。自分が英語を聞き取れなかったり話せなかったりしても、翻訳機を使ってくれて頑張って理解しようとしてくれました。初めは不安や緊張がありました。どんどん減っていき、最後のほうでは英語が上手に話せなくても楽しむことができました。また、実際に海外の人と会話をしたことにより、自分の英語力が分かりました。話してみると、焦りなどで思ったよりも話せませんでした。自分の現状が分かったので、これから勉強を頑張っていこうと思いました。



▲ボンファイヤーでホストシスターと

今回の経験でたくさんのことが学べました。日本とカウラの関係も詳しく知ることができました。オーストラリアで学んだこと、感じたことを忘れずに周りの人に伝えていきたいと思います。

## 「充実したオーストラリア派遣事業」

白石中学校 2年 疋田 晴應

今回のオーストラリア派遣事業に参加したきっかけは、自分の目で世界を見て、自分の体で体験することの価値を感じたからです。インターネットで調べたり、写真を見たりするだけでは得られない、本物の経験を通して得られる学びを求めていました。情報を受け取るだけではなく、五感をフルに使って自分自身で感じることの大切さを、この派遣事業を通して再確認したいという思いがありました。そのため、初めての海外渡航で少し緊張もありましたが、この機会を掴むことで自分自身を成長させたいと考えました。

事前研修会では、ALTの先生と会話練習を行い、自分の英語力を向上させる努力をしました。しかし、その過程で、自分の英語力がまだまだ不足していることを痛感し、不安な気持ちが生まれたのも事実です。「本当に現地でコミュニケーションが取れるだろうか。」という心配があり、研修会期間中も少し不安になりました。それでも、事前研修会でなんとか聞きとったり、復習したりすることを頑張りました。

オーストラリアに到着してからは、やはり最初は不安もありました。しかし、現地の人々と交流していくにつれて安心感が出てきました。それは、現地の人々の温かさのおかげです。言葉がスムーズに出てこなくても、現地の人々は私の言いたいことを分かろうとしてくれました。そのとき、自分の中で助け合いの精神が安心感につながりました。また、日常の中で知らない人が気軽に「Hello!」と声をかけてくれるその親しみやすさには、本当に心が温かくなりました。何気ないやりとりでしたが、それが私にとってとても記憶に残っていて、この国全体が優しさで包まれているように感じました。



▲聖ラファエル校での授業体験

いるという喜びと安心感でいっぱいになりました。早押しクイズでは、みんなが競い合っていてボタンを押し、質問に答えてくれる姿が印象的で、とても嬉しかったです。

この事業で得られたことは、異文化交流の楽しさと難しさです。文化や言語の違いがあっても、気持ちさえあれば人は繋がることができるということを強く実感しました。



▲朝ごはんは好きなシリアルを

同時に、オーストラリアの人々の「Yes」「No」をはっきり伝える姿勢を見習って、私もこれからの生活で曖昧な表現を控え、自分の意思をしっかりと伝えられるようになりたいと思いました。さらに、この経験を他の人々と共有することにも力を入れていきたいです。特に、学校の後輩や今回参加できなかった同級生たちに、私が経験したことを伝えることで少しでも役立てることができればと思います。異文化交流がどれほど貴重で素晴らしいものかを知ってもらうきっかけになれば嬉しいです。

この事業は、ただの海外体験ではなく、私の視野を広げて新しいものを与えてくれる貴重な体験となりました。これからも自分の目で世界を見て、自分の体で学び続け、多くのことを学んでいきたいと思っています。



▲お世話になったツアーガイドのミディさんとお別れのハグ

## 「オーストラリアでの思い出」

東中学校 2年 大橋 陸斗

私が、このオーストラリア派遣事業に応募したきっかけは、文化祭で昨年度オーストラリアに行った先輩たちの発表を見て私も行ってみたいと感じたことと、改めて自分の英語のコミュニケーションがどのくらいできるかを試してみたかったからです。文化祭でのオーストラリア派遣事業の話は、とても印象的で興味を持つようになったきっかけでした。また、私は昔から外国の文化や歴史に興味があったのでいつか外国に行ってみたくて思っていました。

今年の3月頃にこの派遣事業の応募の話があり、私は応募し、初の面接に挑むことになりました。そして、学校の放課後の時間に、結果を渡すので集まってほしいと言われ、別室で結果の入った封筒をもらい家に帰り緊張しながら開けると、派遣メンバーに選ばれたことが書いてあり、すごく嬉しかったのを今でも覚えています。そして、事前研修会が始まり、語学演習や聖ラファエル校での出し物の練習をしました。語学演習では、ALT



▲事前研修会の語学演習にて

の先生との会話でなかなか単語が出なかったり、出し物の書道の練習で筆や墨の使い方の説明やお手本を見せたりするなど、少し大変だったこともありましたが、事前研修会が進むごとにオーストラリアに行く日が近くなっていることを実感していくようになり、少しずつ自然に笑顔で楽しく英会話ができるようになっていたり、単語が出てこなくてもジェスチャーを交えたりして説明ができるようになりました。

結団式が終わり、いよいよ出発になると少し緊張する気持ちも出てくるようになり



▲聖ラファエル校での授業体験

ましたが、「できることは全部やった、大丈夫。」と自分に言い聞かせ、勇気を全力で出し、白石から出発しました。そして、羽田空港に着き、最初は初めて来た羽田空港がとても大きく驚きましたが、空港と飛行機から見えるシドニーの街を見た時の驚きの方が大きかったです。それから、空港の入国審査を終えて空港の出口で現地ガイドのミディさんに会い、シドニー市内の見学で動物園やダーリ

ングハーバーからフェリーに乗ったり、オペラハウスを訪れたりなど、シドニーを満喫することができました。

そして、翌日カウラに到着し、ついにホストブラザーのレイン君と対面をしました。初めて会い、お互いに挨拶を交わしたあの時の緊張は今でもはっきりと覚えています。翌日からは学校体験が始まり、ホストファミリーと本格的に過ごすようにもなり、たくさんの思い出を作ることができました。その中でも特に印象に残ったことは2つあります。1つ目は、初めてホストファミリーの家に行った日のことです。レイン君の家はとても大きく、トイレに行く時に少し迷ってしまうほどでした。その日はビリヤードや卓球、ゲームをしたり、夜食にホストファミリーと一緒に楽しく話しながらピザを食べたりなど、とても楽しい時間を過ごすことができました。2つ目は、ホストファミリーという最後の日のことです。私はこの日朝からあともうすぐでお別れなのだという悲しい思いでいっぱいでしたが、この日はホストマザーとホストブラザーと一緒にドーナツ屋さんに行ってドーナツを食べたり、ものすごく見応えのあるラグビーの試合を観ながら一緒に「Let's go Cowra!」と応援したり、私が日本から持ってきたけん玉やお手玉、紙風船などの日本のおもちゃで一緒に遊んだりして最後にたくさん楽しい思い出を作ることができました。



▲最後にお世話になったホストファミリーと

今回の経験を踏まえて、今後英語の勉強をもっと頑張って英検にも積極的に挑戦して、自分の英語に自信を持てるようにしてからもう一度オーストラリアに行ってみたいと思いました。また、家に迎えてとても優しくしてくれたホストファミリーの皆さんやオーストラリアに行く準備など協力してくれた白石市役所の方々や先生方、そして一番近くで支えてくれた家族には心から感謝しています。とても印象的で素晴らしい貴重な体験を本当にありがとうございました。

## 「オーストラリア派遣事業を終えて」

東中学校 2年 渡邊 晴

このオーストラリアの派遣事業に応募したきっかけは、2つあります。1つ目は、英語の発音をスムーズにしたかったからです。どうしても、カタコトになってしまうので、実際に外国に行って、たくさん英語を聞いて発音の仕方を学ぼうと思いました。2つ目は、カウラの学校に会いたい先生がいたからです。その先生は、私が小学6年生の時に、私が通っていた学校に交流しにきて、そこでたくさん会話して、とてもいい思い出になりました。そして私が中学2年生のときの鬼小十郎まつりの英語ボランティアをしているときに、その先生とまた再会することができました。私のことはもう忘れていたかと思いましたが、その先生は覚えていてくれました。そして、次は私から先生に会いに行けたらいいなと思い、この派遣事業に応募しました。



▲聖ラファエル校の生徒とカードゲーム

事前研修会では、派遣生徒のほとんどが白石中学校の人で緊張していましたが、すぐに打ち解けて友達になることができました。語学演習では、ALTの先生たちと実際に英語で話す練習をしました。初めのうちは聞き取るのが難しかったり、質問に答えられなかったりと慣れませんでした。日を重ねていくにつれ質問にも答えられるようになっていきました。

オーストラリアに実際に行ってみての感想は、たくさんあるので分類分けして話そうと思います。まず驚いたことが、初対面の人でも明るく挨拶をするのが当たり前だ



▲カウラの戦争捕虜収容所跡地の案内図を見て

ということです。町を歩いているときなど、すれ違った人に、「Good day!」や、「How are you?」などと、たくさん話しかけてもらいました。それで私はとても心が温まりました。次に驚いたことが、日本とオーストラリアの学校の違いです。私が行った聖ラファエル校では、生徒が授業中に飴などのお菓子を食べていたり、立ち上がって友達と話していたり、かなり自由な印象で、日本の授業と全く

異なっていて、私は面食らいました。また、生徒だけではなく、先生も椅子があるのに机に座るといふ日本では到底考えられないことをしていました。クラスの雰囲気はと

ても明るく、分からないところがあっても聞きやすい環境でした。個人的には静かで堅苦しい日本のクラスより、明るく賑やかなオーストラリアのクラスの方が居心地良かったです。また、クラスメイトたちもみんな優しく、積極的に話しかけてくれて、すぐに打ち解けることができました。次にオーストラリアの自然についてです。オーストラリアのカウラは静かな町で、自然がたくさんありました。道路の脇には草原のような果てのない空間がありました。そこでは、馬や牛や羊が放牧されていて、草を食べていました。また、森の方ではカンガルーも見かけました。とても大きく、ものすごく速いスピードで飛び跳ねていました。カンガルーと車の衝突事故は、オーストラリアではかなりあることだそうで、私もホストファミリーと出かけた時に1頭轢かれているのを見ました。あんなに大きなカンガルーが車と衝突したらひとたまりもないなと思いました。次は、日本兵集団脱走事件についてです。オーストラリアに行く前に事前に少し話は聞いていましたが、オーストラリアに行って実際の詳しい話を聞くことができました。実際に日本兵が収容されていた場所に行ったり、話を聞いたりして、悲惨なことがあったことを知りました。このことは、教科書にも乗っていないし、授業で教えてもらうこともないと思うので、自分からこのようなことがあったということを発信していきたいと思いました。最後に、ホストファミリーの方たちと過ごしたことです。私は乳製品のアレルギーを持っているのですが、ホストファミリーの方々が食事の際に、とても気をつけてくださり、安心して食事を楽しむことができました。また、ラクダに餌をあげたり、ホストファミリーの親戚の方が営んでいる牧場で馬と戯れたりと日本ではあまりできない一生の思い出になる貴重な体験をさせてもらいました。

オーストラリアで一番よく分かったことは、英語がうまく伝わらなくても、ジェスチャーや単語の羅列を作るだけでも、会話は一応できるということです。しかし、会話に必要な単語など、文法が分かった方が断然会話が弾むので、これからはもっと英語の勉強に力を入れていきたいです。そして、カウラでの日本人脱走や、日本とは違うオーストラリアのクラスなど、オーストラリア



▲最後にホストファミリーと記念写真

で学んだ貴重な体験を今後いろんな人に話していきたいです。また私のようにアレルギーやなにかハンディキャップがある人でも諦めずにこのようなことに挑戦してほしいと思いました。

## 「異文化と歴史に触れたオーストラリア訪問」

オーストラリア友好親善訪問団 団長 小室 悦子

令和7年度オーストラリア友好親善訪問団は、7月28日から8月6日までの10日間の日程で訪問して参りました。初めて全員で顔を合わせたときは不安そうな表情も見られましたが、事前研修会や結団式、10日間の海外生活でどれだけ変われるのか頼もしくも思えました。今年からホームステイができなくなったため、ホストファミリーのお宅を訪問するホームビジットになりましたが、聖ラファエル校での授業体験や校外学習、学校での日本と白石の紹介など、自分たちの英語力を試せる機会はたくさんありました。



▲結団式で引率としての決意を表明

約9時間のフライトを終えた私たちを、シドニー空港では現地ツアーガイドのミディさんが赤い服を着て待ち構えていてくれました。ミディさんは約1時間前から待機していましたが、この待ち時間も想定内だよ！と快く受け入れてくれました。



▲カウラにある平和の鐘を鳴らす

今回訪問したカウラ市はオーストラリアのニューサウスウェールズ州にあり、シドニーから320キロ、車で約5時間のところに位置しております。カウラへ向かう日は、朝からあいにくの雨で霧も濃かったため、ブルーマウンテンズ国立公園へ行くことはできませんでした。しかし、雨の中でも都会の風景から広大な自然豊かな風景に変わっていく素晴らしさを体験することができました。約5時間のバス移動でしたが体調を崩す子もなく、聖ラファエル校に到着しました。ホストバ

ディたちが私たちの到着を待っていて、緊張のご対面です。緊張しながらも握手を交わし、笑顔で記念撮影をしました。この日は対面のみでここでお別れとなったので、明日からの活動がより楽しみになったことと思います。

そしていよいよ授業体験の日。雲ひとつない青空のもと、初登校です。学校までは歩いて15分くらいの距離ですが、結構な坂道があり朝から良い運動になりました。カウラ滞在時の朝食はすべて学校で食べさせていただきました。これらはすべて学校が善意で用意してくださったもので、本当に有難くいただきました。8名の生徒たちは、そ

れぞれホストバディと一緒に授業を受けました。生の英会話に圧倒されつつも、オーストラリアではどのように授業を受けているのかを体験しました。日本との違いを体験し、驚きの連発だったのではないのでしょうか。聖ラファエル校には日本語の教室もあり、そこにはひらがなや日本語で書いた時間割表が掲示されていたり、過去に白石市から贈っためんこ印も置いてあったりしました。

聖ラファエル校体験2日目、みんなで練習を重ねた全体発表と班活動の日です。全体発表では、何度も練習を重ねた日本と白石市のクイズを出題しました。自分たちの英語が伝わるのか、理解してもらえるのかという不安がありましたが、聖ラファエル校の生徒はもちろん先生方も一緒に楽しんでくれて、子どもたちは自分たちの話す英語で伝えられる喜びを実感できたと思います。この後の班活動では茶道・書道を発表し、「Bitter」とお茶を飲む生徒や、自分の名前を片仮名で書いて喜んでいた生徒など、来てくれた生徒の皆さんに笑顔で楽しんでもらいながら日本の文化を伝えることができました。



▲キャンペラの夜明け前



▲戦争捕虜収容所の様子が描かれている

カウラには戦争捕虜収容所跡地があります。ここでは、1944年第二次世界大戦中に日本兵捕虜による集団脱走事件が起き、231人の日本兵と4人のオーストラリア兵が死亡しています。この事件は「カウラ事件」と呼ばれ、戦争の悲劇の一つとされています。戦後、カウラでは日本人戦没者墓地が設けられ、日本庭園なども造られ、和解と友好の象徴の町と知られるようになりました。しかし、

日本では学校教育でもほとんど扱われておらず、また、原爆やほかの大きな戦争被害の影に隠れ、この事件はあまり知られていないのが現実です。カウラ事件は過去の悲劇だけでなく、平和への努力の象徴でもあります。実際に収容所跡地や戦争墓地、平和の鐘を見学して、日本でももっと多くの方々に知っていただく歴史だと改めて感じました。

生徒たちはこのオーストラリア訪問を通して、自分の英語が通じた時の喜び、伝わらなかった時の悔しさ、ホストファミリーの温かさ、カウラの人々の優しさ、伝えることの大切さなどたくさんのことを学んだと思います。今後はより英語力を磨き、世界を羽ばたいていくことでしょう。可能性は無限大です。小さな世界に留まらず、色んな事に挑戦して人生を謳歌してほしいです。

今回、このような貴重な機会を与えていただきありがとうございました。私自身もオーストラリアの広大な自然に触れ、日本との流れる時間の違いや文化の違いを改めて体験することができました。共に訪問した副団長の大宮先生が居てくれたことがとても心強かったです。そして、生徒たちをいつも温かく見守ってくれた現地ガイドのミディさん、朝早くから私たちと行動を共にしてくれたタマサ先生、生徒たちを温かく受け入れてくれた聖ラファエル校のみなさん、また、10日間の不在を快く送り出してくれた議会事務局のみなさん、出発前の下準備から細々な手配までしてくれたまちづくり推進課担当者の方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。



▲副団長(右)、ミディ中嶋氏(左)と

## 「生徒たちと共に学んだ10日間

### —オーストラリア友好親善訪問団派遣を終えて—

オーストラリア友好親善訪問団 副団長 大宮 葉子

この度は、オーストラリア友好親善訪問団の副団長という大切な役割をいただき、貴重な経験をさせていただきましたことに、心より感謝申し上げます。海外での活動は、国内とは違い予想外のことが起こる可能性もありますので、私は何よりも「生徒たちを元気に日本へ帰すこと」を一番の使命として、気を配りながら日々を過ごしました。事務局の皆さま



▲事前研修会にて出し物発表のアドバイス

の綿密な準備、現地ガイドさんの温かいご対応、そしてご家族の皆さまのご協力のおかげで、10日間にわたる行程を大きな問題なく終えることができました。体調を崩したりけがをしたりする生徒もなく、全員が元気に帰国できたことを心から安堵するとともに、多くの方々の支えに改めて感謝いたします。



▲箸で爪楊枝を何本取れるかチャレンジ

今回の派遣に参加した生徒たちの多くは、「英語をもっと頑張りたい」という思いを胸に出発しました。しかし、シドニー空港に着いてすぐに耳にしたアナウンスの速さや、カウラでの独特な発音に戸惑い、改めて自分たちの力不足を感じている様子が見られました。それでも、ホストファミリーに助けられながら、簡単な言葉を繰り返したり、身振り手振りを交えたりしながら少しずつ自分の言葉が通じることに喜びを見出し、

日ごとに笑顔が増えていく姿が印象的でした。特に、白石市紹介クイズの準備では、現地でも仲間同士で練習を重ね、聖ラファエル校の先生の「ゆっくり、はっきり伝えることが大切」というアドバイスを素直に受け止めて取り組む姿が見られました。本番は堂々と発表することができ、会場は大変盛り上がりました。発表後の生徒たちの顔には、安心と達成感があふれていて、この経験が彼らにとって大きな自信になったことを実感しました。

私自身も、今回の訪問を通じてオーストラリア・カウラの皆さんの温かさに心を動かされました。シドニーからカウラに向かう道中で伺った、第二次世界大戦中の日本人捕虜と現地の方々の話は、特に忘れられません。敵国であった脱走した日本兵に食事を差し出した女性や、亡くなった方々のために墓地を整えてくださった方々。そのように人として大切なことを貫いた心が、今も受け継がれていることを実感しました。実際に、カウラの皆さんは私たちをととても温かく迎えてくださいました。特に、聖ラファエル校

の先生方やホストファミリーの皆さんは、生徒が喜ぶような活動や食事を工夫してくださり、そのおもてなしの心に支えられて生徒たちも充実した日々を過ごせました。ホストファミリーの方々が「受け入れる側だから仕方なく」という姿勢ではなく、「一緒に楽しむ」と思ってくださっていることが伝わってきて、その温かさに触れるたびに、私も幸せな気持ちになりました。

また、カウラの日本人捕虜脱走事件やキャンベラの戦争記念館での学びを通じて、日本の学校では触れる機会の少ない歴史を知ることができました。戦争が社会に与えた影響を改めて考える機会となり、日本人として忘れてはいけないことを心に刻む時間となりました。カウラは日本と深い関わりを持つ都市であり、多くの地域が聖ラファエル校との交流を希望する中で、現在は東京の高校と白石市に限られていると伺いました。選ばれた交流先としての誇りを感じるとともに、このご縁を大切にしながら、今後も交流が長く続いていくことを願ってやみません。



▲子羊を抱っこ



▲聖ラファエル教会で神父さんと

学校体験やホームビジットを通して、生徒たちは「もっと語学を頑張らなければ」と強く感じたようです。ただ、今回の経験から私が特に大切だと感じたのは、語学力そのものよりも「自分の思いを伝える力」です。オーストラリアの生徒たちは積極的に質問し、率直に自分の考えを言葉にしていました。それに比べると、日本の生徒はなかなか声に出せず、感想も短く終わってしまう場面がありました。これからの時代に必要とされるのは、自分の気持ちや考えを表現する力だと思います。

今回の経験を学校現場に還元し、生徒が日頃から「考えを持ち、それを相手に伝える」ことができるよう、日々の指導を工夫していきたいと感じています。改めて、このように素晴らしい機会をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。訪問を通じて得た気づきや学びを大切にしながら、今後も生徒たちが国際社会の中でのびのびと力を発揮できるよう、努めてまいります。

令和7年度  
オーストラリア友好親善訪問団派遣事業  
実施報告書

令和8年1月発行

編集発行 白石市国際交流支援協議会事務局  
(白石市まちづくり推進課内)